

合併問題

白根町の要望案決定

発足目標三十年一月一日

これまでの経過と見通し

足かけ三年有余、白根郷十ヶ町村の運命をかね、活潑に論議された町村合併問題も去る十月五日の臨時町会において全議員、半年にわたる調査研究の結晶「白根町の要望案」が承認され、ここに合併問題の焦点もいよいよ町村合併促進協議会にうつり白根町と郷と協議会、白根町案を調整加味した「新しい町建設設計書」のねりなおりという重要な段階に入った。白根町の決定要望事項の主な点は、一、住民の賦課方式がかり、若干増徴する。二、高校の設立は初年度より予算化。三、現議員の任期は発足までとし、新議員数は三〇名の三点である。が、ここに館報第十五号にひき続き白根町の要望案を中心として、いままでの経過と今後の見通しなど取材、解説してみよう。

発足目標三十年一月一日

白根郷十ヶ町村合併問題は、中心地白根町が本年四月二十六日の急開町会に、合併に関する諸議案が提案されたが、新町建設設計書を一応調査研究するに限り、議会の全委員会に附託し、半年有余にわたり、四部門ごとに郷、郡の実態を調べることはもちろん、広く内外の先進地視察をおこない、あらゆる角度より研究調査を続けた。かくて十月二日、全員協議会を開き、町独自の合併に対する要望を全委員一致してとりまとめ、十月五日の臨時会に全委員会、委員長の報告と併せて要望事項が承認された。

空から見た白根町



この合併促進協議会に提出した要望案は、協議会に提出された十ヶ町村問題もいよいよ新町建設設計書の作成という最重要段階に達したわけである。白根町としては昭和三十年一月一日、合併発足を目標としており、それには遅くとも十二月内、郷に新町建設設計書を作成し、それにより郷内各町村合併協議会の段階に入るとともに、当町においても正式に合併協議案を協議に提案する。

高校の設置は初年度より

決定要望事項の内容

この白根町が郷の促進協議会に提出する「議会の決定要望事項」の要点を町民読者にわかりやすく改め解説してみよう。

財政関係

あらゆる資料を集め調査研究検討した結果、税の課税は同一の税率で同一の課税方法によることとすべきであると考えられる。なお各種の事業を遂行するためには当然市町村民税に代りてはO.P.T.のたし書(現白根町本文)を適用して課税しなげばならぬと考へられ、それに伴うのが適当であるが、委員会の総合意見として要望する。たし書、実施にあたっては技術的調整を加え、極力不均衡を最少限にする。

新議員数三十名

現議員の任期は新町発足まで、現議員の任期は新町発足日まで(かりに三〇年一月一日発足するならば)の議員の定数は地方自治法による(新白根町の定数は三〇名となる)選挙は一期に限り小選挙区制(旧町村地区別)でおこなうよう要望する。特別職については新町発足と同時に退職していただくよう要望する。

教育問題

白根町に高等学校の建設を総額五千萬元で、合併後第一年度から予算に計上することを要望する。なお財源困難の場合は役場新築(一、三三四萬元)とその他緊急を要しない事業をくりのべても高校建設の実現をはかれるよう要望する。△国道一級八号線はスワノ木より味方橋まで舗装道路が実現できるよう一ノ丁より火葬場附近まで舗装するよう努力せられることを要望する。

土木関係

△大白根町の都市計画の樹立振興を要望する。△中野排水路と味方中学駅前の中野川を計画せられるよう要望する。

その他

現議員の任期は新町発足日まで(かりに三〇年一月一日発足するならば)の議員の定数は地方自治法による(新白根町の定数は三〇名となる)選挙は一期に限り小選挙区制(旧町村地区別)でおこなうよう要望する。特別職については新町発足と同時に退職していただくよう要望する。

むすび

合併も準備期間をすぎ、いよいよ本格的段階に入ったようであるが、最も必要とされるものは、住民一人一人の正確な理解であり、それがまた合併の唯一最大の決定権をもつものである。そして白根町百年の運命が現在の町民一人一人にゆだねられていることを想起し、單なる空論にあらざる「深い良心」をもって合併に賛成してゆきたいものである。

青年会を再認識して欲しい

青年会は何も事業をしていないではないかと。青年会は事業をしていないかもしれない。しかし、やらないイニール・サボタージュしているのでは絶対ない。と信念を秀な団体でもなく、至難である。

館報「はいすいとう」欄に抗議する

武石 一男 県の上級技、相模、賑伝、なほ、また青年指導者講習会、芸能、球算、弁論などの大会を開催し参加した予定している。これらの事業をわづか五万円でおこなうことは、いかなる優秀な団体でもなく、至難である。

青年会を再認識して欲しい

青年会は何も事業をしていないではないかと。青年会は事業をしていないかもしれない。しかし、やらないイニール・サボタージュしているのでは絶対ない。と信念を秀な団体でもなく、至難である。

青年会を再認識して欲しい

青年会は何も事業をしていないではないかと。青年会は事業をしていないかもしれない。しかし、やらないイニール・サボタージュしているのでは絶対ない。と信念を秀な団体でもなく、至難である。

青年会を再認識して欲しい

青年会は何も事業をしていないではないかと。青年会は事業をしていないかもしれない。しかし、やらないイニール・サボタージュしているのでは絶対ない。と信念を秀な団体でもなく、至難である。

青年会を再認識して欲しい

青年会は何も事業をしていないではないかと。青年会は事業をしていないかもしれない。しかし、やらないイニール・サボタージュしているのでは絶対ない。と信念を秀な団体でもなく、至難である。

青年会を再認識して欲しい

青年会は何も事業をしていないではないかと。青年会は事業をしていないかもしれない。しかし、やらないイニール・サボタージュしているのでは絶対ない。と信念を秀な団体でもなく、至難である。

青年会を再認識して欲しい

青年会は何も事業をしていないではないかと。青年会は事業をしていないかもしれない。しかし、やらないイニール・サボタージュしているのでは絶対ない。と信念を秀な団体でもなく、至難である。

青年会を再認識して欲しい

青年会は何も事業をしていないではないかと。青年会は事業をしていないかもしれない。しかし、やらないイニール・サボタージュしているのでは絶対ない。と信念を秀な団体でもなく、至難である。

青年会を再認識して欲しい

青年会は何も事業をしていないではないかと。青年会は事業をしていないかもしれない。しかし、やらないイニール・サボタージュしているのでは絶対ない。と信念を秀な団体でもなく、至難である。

青年会を再認識して欲しい

青年会は何も事業をしていないではないかと。青年会は事業をしていないかもしれない。しかし、やらないイニール・サボタージュしているのでは絶対ない。と信念を秀な団体でもなく、至難である。